

第15回全国中学生弓道大会
JOCジュニアオリンピックカップ大会

大会出場の手引き

第15回全国中学生弓道大会実行委員会

第15回全国中学生弓道大会、JOCジュニアオリンピックカップ大会が、実施要項のとおり開催される運びとなりました。

本手引きには、日程や注意事項など重要事項が掲載されておりますので、ご熟読の上、大会への参加をお願いいたします。また、大会期間中は常に携行するようお願いいたします。

目次

1. 実施要項	3・4頁
2. 弓道競技規則抜粋	5頁
3. 大会スケジュール	6頁
4. 受付について	7頁
5. 公開練習について	7頁
6. 監督会議について	7頁
7. 式典について	7頁
8. 競技について	8・9頁
9. 競技運行について	10頁
10. 注意事項	10・11頁
11. その他	11頁
12. 問合せ先について	11頁
13. 会場案内	11・12頁

【各種届出書】

監督会議の事前質問書	13頁
立射・取矢免除申請書	14頁
選手変更届	15頁
選手交代届	16頁
監督変更届	17頁

1. 実施要項

1. 目的 中学校教育の一環として、中学校生徒に広く弓道競技の実践の機会を与え、技能向上とアマチュアスポーツ精神の高揚を図り、心身とも健康な中学校生徒を育成するとともに、相互の親睦を図る。
2. 主催 公益財団法人全日本弓道連盟
3. 後援（申請予定） スポーツ庁・公益財団法人日本オリンピック委員会〔JOC〕・公益財団法人日本中学校体育連盟
東京都教育委員会・公益財団法人東京都体育協会・明治神宮・一般財団法人明治神宮崇敬会
公益財団法人日本武道館
4. 主管 第15回全国中学生弓道大会実行委員会
5. 期 日 平成30年8月18日（土）・19日（日）
※8月17日（金）は公式練習日とする。
6. 会 場 全日本弓道連盟中央道場／明治神宮武道場至誠館弓道場
〒151-8557 東京都渋谷区代々木神園町1-1
TEL：03-5302-5865
7. 競技種目 近的競技
8. 競技種類 団体競技・個人競技
9. 競技種別 男子の部・女子の部
10. 競技内容 的中制（坐射・直径36cm霰的）
11. 競技日程
- | | | |
|-------|--------|---------------|
| 8月18日 | 9：00～ | 監督会議 |
| | 10：00～ | 開会式 |
| | 開会式終了後 | 矢渡 |
| | 11：00～ | 団体・個人 予選 |
| | 予選終了後 | 団体 決勝トーナメント抽選 |
| 19日 | 9：00～ | 団体 決勝トーナメント |
| | | 個人 決勝 |
| | 競技終了後 | 閉会式 |
12. 競技方法
- (1) 団体競技
- 1) チーム編成
- ①競技は、両種別とも3人立で行う。
- ②チームの登録は、両種別とも監督1名、選手4名以内とし、選手の立順（行射の順番）は参加申込時の登録順とする。
- 2) 予選
- ①両種別とも各自4射2回にて的中数の上位16チームを決勝トーナメント進出とする。
- ②決勝トーナメント進出の為の同中競技は、両種別とも各自1射にて、総的中数の多いチームを上位とする。
- なお、1回の競技で順位が決らない場合は、順位が決定するまで繰り返す。
- 3) 決勝トーナメント
- ①両種別とも各自4射1回のトーナメント法で行う。
- ②同中の場合は、両種別とも、各自1射にて、総的中数の多いチームの勝ちとする。
- なお、1回の競技で勝敗が決らない場合は、勝敗が決定するまで繰り返す。
- (2) 個人競技
- 1) チーム編成
- 両種別とも監督1名、選手1名とする。
- 2) 予選
- 各自4射2回にて5中以上の的中者を決勝進出とする。
- 3) 決勝
- 射詰競技にて順位を決定し、継続的中数の多い方を上位とする。
- 継続的中数が8中となった場合、9本目以降は、直径24cm星的を使用する。
- 的中を逸した同位者は、直径36cm霰的を使用し遠近競技を行う。
- ただし、最上位者を決定する場合は、射詰競技を継続する。
- (3) 制限時間については大会出場の手引きに記載する。
- (4) 選手監督の変更及び交代については大会出場の手引きに記載する。

13. 表彰
- (1) 団体競技（両種別共通）
 - 1) 優勝チームに本連盟よりカップ（持ち回り）、賞状及びメダルを授与する。
 - 2) 2位～5位のチームに本連盟より賞状及びメダルを授与する。
（3位2チーム・5位4チーム）
 - 3) 技能優秀チームを選考し、本連盟よりカップ（持ち回り）及び賞状を授与する。
 - (2) 個人競技（両種別共通）
 - 1) 優勝者に本連盟より賞状及びメダルを、公益財団法人日本オリンピック委員会よりカップを授与する。
 - 2) 2位～8位に本連盟より賞状及びメダルを授与する。
 - 3) 技能優秀者を選考し、本連盟より楯及び賞状を授与する。
14. 参加資格
- (1) 選手及び監督は所属する都道府県弓道連盟が選抜し代表として認証を受けた者であること。
 - (2) 選手は当該都道府県に在住または在学中とする。
 - (3) 両種別とも各都道府県から団体競技は1チーム、個人競技は1名とする。
 - (4) 北海道は両種別とも団体競技は1チーム、個人競技は1名増を認める。
 - (5) 東京都は開催地参加枠として、両種別とも団体競技は1チーム、個人競技は1名増を認める。
 - (6) 両種別とも前年度優勝チームは、団体競技の優先出場を認める。
 - (7) 両種別とも前年度技能優秀チームは、団体競技の優先出場を認める。
15. 適用規則 公益財団法人全日本弓道連盟「弓道競技規則」ならびに大会要項による。
16. 参加料 無料
17. 参加申込
- (1) 方法

参加チームは、所定の参加申込書に必要事項を記入又は入力の上、所属地連へ申請すること。
地連は、申請者の資格等確認の上、承認を行うこと。
参加チームは、承認を受けた参加申込書を締切日までに下記宛に送付すること。
なお、送付前に必ず複写等で控を取り、所属する都道府県弓道連盟及び参加チームの控として保管すること。
 - (2) 申込先

〒150-8050 東京都渋谷区神南一丁目1番1号 岸記念体育会館内
公益財団法人全日本弓道連盟 全国中学生大会実行委員会 宛
TEL：03-3481-2387 FAX：03-3481-2398
18. 締切日 平成30年7月18日（水）厳守
19. 宿泊 各自で手配すること。但し、下記のホテルを希望する場合は別紙を確認し直接予約すること。
「パールホテル両国」「ホテルサンライト新宿」パールホテルズ営業課 TEL：03-5608-8080
20. 注意事項
- (1) 大会参加にあたり、後日各地連経由で配布の「大会出場の手引き」を確認すること。
 - (2) 弓具、服装について第3控で点検を行う。違反箇所が修正されなければ失権とする。
 - (3) 手書きの場合、申込書には、必要事項を黒のボールペン又は万年筆で自筆により楷書で判りやすく明確に記入すること。鉛筆・サインペン等は使用しないこと。
 - (4) 会場へは、公共の交通機関を利用すること。
 - (5) 参加者を対象に主催者で傷害保険に一括加入するが、参加者各位においてもスポーツ安全保険に加入することが望ましい。
 - (6) 参加者は健康保険証を持参のこと。
21. 映像の取り扱いについて
- 個人が撮影した画像・動画などのインターネット配信等については、撮影者において、被写体となる方の同意を得るなどして、肖像権侵害等の問題を生じないよう、十分に配慮すること。権利侵害の可能性や疑問が残る場合には、他者の権利を尊重して、撮影・配信等を中止すること。
22. その他
- 申込書の提出により、以後の関係資料について下記取り扱いの旨、承諾を得たものとする。ただし、下記(2)の月刊『弓道』・ホームページへの掲載に関しては、本人より不同意の申し出があった場合は、公開を停止する。
- (1) 大会プログラムならびに関係書類への記載（氏名、所属地連、称号、段位）
 - (2) 大会結果報告として、地連会長宛文書及び月刊『弓道』・ホームページへの掲載（氏名、所属地連、称号、段位、写真）
 - (3) 報道機関、写真業者等の写真撮影とその掲載等については、主催者は関知しない。関係各法例を遵守する義務は、写真撮影者にあることを主張する。

2. 公益財団法人全日本弓道連盟弓道競技規則【平成28年4月1日改定】

(第20条、第21条抜粋)

<p>第20条 〔弓具の規定〕</p> <p>使用する弓具は、伝統的な形状のものでかつ危険を及ぼす恐れのないものとする。</p> <p>(別紙20条 P-16伝統的な弓具図解概要参照)</p> <p>(1) 弓は、日本弓(和弓)とし、次の要件を満たすこと。</p> <p>(ア) 長さは、221cm(7尺3寸)を標準とし、若干の長短は認める。</p> <p>(イ) 握りは、本弰から約3分の1の辺りにある。</p> <p>(ウ) 矢摺籐の長さは、籐頭より6cm以上とする。</p> <p>(エ) 照準のための装置や、矢摺籐に作為的な目印がない。</p> <p>(オ) 材質は、竹・木または新素材(グラスファイバー、カーボンなど)でもよい。</p> <p>(2) 矢は、次の要件を満たすこと。</p> <p>(ア) 長さは、各自の矢束に従い安全な長さとする。</p> <p>(イ) 籐の太さは、直径6mm以上とする。</p> <p>(ウ) 籐の材質は、竹または新素材(アルミ、グラスファイバー、カーボンなど)でもよい。</p> <p>(エ) 羽根は、鳥の羽根を3枚使用し甲矢、乙矢の区別がある。</p> <p>(オ) 羽丈(羽根の長さ)は、近的競技は13cm~15cm、遠的競技は9cm~15cmとする。</p> <p>(カ) 羽山(羽根の高さ)は、5mm以上とする。</p> <p>(キ) 本矧、末矧および筈巻がある。</p> <p>(ク) 筈は、埋込式で筈溝がある。</p> <p>(ケ) 筈は、筈溝以外の機能(蛍光、発光など)を有しない。</p> <p>(コ) 板付はかぶせ式とし、平題形、椎実形あるいは円錐形のいずれかである。</p> <p>(サ) 引込位置などを示す目印や類似のことがない。</p> <p>(3) 弦は、次の要件を満たすこと。</p> <p>(ア) 撚って一本になっている。</p> <p>(イ) 材質は、麻または新素材などでもよい。</p> <p>(4) 碟(ゆがけ)は、次の要件を満たすこと。</p> <p>(ア) 行射では、必ず右手に碟を着用する。</p> <p>(イ) 三つ碟、四つ碟あるいは諸碟のいずれかを使用する。</p> <p>(ウ) 控、帽子および弦枕がある。</p> <p>(エ) 材質は鹿革とする。</p> <p>(5) 補助具など</p> <p>伝統的な押手補助具や傷部保護のための包帯、テーピングを除き、押手にはその他の物を付けてはならない。</p>	<p>20</p> <p>* 弓具については使用目的や利用者の体格や技量などによって様々な種類があり、適切な選択が望ましく、競技の種類によっては大会要項で規定されることもある。新素材の弓具の使用は許容されるが、特に弓、籐、羽根、弦、碟の色彩については、武道の精神に鑑み、伝統的な色・柄が望ましく、けばけばしくないものとする。</p> <p>* 競技には日本弓を使い、洋弓を使用しないことを規定したものである。</p> <p>日本弓の標準的長さは221cm(並寸)で、現在は6cm~18cm伸などがあり、また逆に3cm~12cm詰などがあるので、長短を認めることとした。日本弓の特徴は長弓であるとともに、握りの位置は、中心から下で全長の約3分の1の辺りにある。したがって「約」として規定した。</p> <p>籐の節は目印と見做さない。ただし作為的に籐の節目が目印となるような巻き方をしてはならない。</p> <p>* 日本弓に洋弓の特殊な形態をした羽根の矢、羽丈の短いもの、羽山の低すぎるものなど、伝統的な形態を損なっているものや鳥以外の材質のものは使用しない。「鳥獣保護に関する法律」を順守し、不法捕獲による鳥の羽根は使用を禁止する。</p> <p>* 中仕掛けに付ける伝統的な「探り(露)」は目印と見做さない。</p> <p>* 矢筈に関し、「筈巻付き被せ式筈」の使用は認める。ただし伝統的な形状でありかつ危険を及ぼす恐れがないことに十分注意すること。</p> <p>* 「諸碟・角入り三本碟」は、控があるものと見做す。中学生・高校生など初心者については「柔帽子、和帽子」の使用を認める。ただし習熟するに従いできるだけ早い機会に弦枕のある碟を使用することが望ましい。</p> <p>* 伝統的な押手補助具としては、押手碟(拇指、人差指の2本指と拇指のみの1本指)がある。</p>
<p>第21条 〔服装の規定〕</p> <p>1) 競技の服装は、弓道衣[筒袖、袴および白足袋]または和服[着物、袴および白足袋]とする。</p> <p>ただし競技によっては、大会要項で服装を規定できる。</p> <p>2) 下記の大会については男子女子ともに弓道衣[白筒袖、黒袴および白足袋]とする。</p> <p>(1) 全日本男子弓道選手権大会</p> <p>(2) 全日本女子弓道選手権大会</p> <p>(3) 全日本弓道遠的選手権大会</p> <p>(4) 全日本勤労者弓道選手権大会</p> <p>(5) 国民体育大会弓道競技会</p> <p>3) 弓道衣にマーク(氏名、チーム名、クラブ名および学校名など)を付ける場合は、筒袖および袴それぞれ1か所のみとし、その大きさは縦横10cm以内とする。</p>	<p>21</p> <p>* 服装の色合いについては、第21条2)と特に大会要項で定める場合を除き定めない。</p> <p>* 筒袖の袖の長さは、肘程度が望ましい。</p> <p>* 弓道衣下の下着は、無地とし、襟付き・ハイネックは好ましくない。</p> <p>* 初心者は、運動服着用を認めるが、前ボタン・前チャックの物は避けること。</p> <p>* 袴は、男子は腰板があるもの、女子は腰板のないものが一般的である。行燈袴は好ましくない。袴の裾は、足踏の姿勢で床面に着かないことが望ましい。</p> <p>* 国民体育大会少年種別の紺袴は大会要項により認める。</p> <p>* 弓道衣に会社の宣伝効果をねらった必要以上の大きさのマークをつけることは好ましくない。</p> <p>しかし、チーム名をつけることは逆に進行状況がわかり、ゼッケン替りになることもあり、また、選手は愛社心も出てくるので推奨したい。</p>

3. 大会スケジュール

(1) 予選立順の告知・8月上旬予定

参加申込締切り後、実行委員会にて抽選により決定し、全日本弓道連盟のホームページへ掲載する。

(2) 大会日程

	予定時刻	中央道場	至誠館弓道場
8月17日 (金)	9:45	開館（中央道場玄関・観覧席） 受付開始（16:00まで）	入館は中央道場から
	10:00	公開練習（16:00まで）	公開練習（16:00まで）
	16:00	審判会議	
	17:00	閉館	閉館
8月18日 (土)	8:00	開館（中央道場玄関・観覧席） 受付（8:30まで）	入館は中央道場から
	9:00		監督会議 ※中央道場より渡り廊下を使用し移動
	10:00	開会式・矢渡	
	11:00	女子団体予選1回目	男子団体予選1回目
		女子個人予選1回目	男子個人予選1回目
		昼食休憩	昼食休憩
	14:00	男子団体予選2回目	女子団体予選2回目
		男子個人予選2回目	女子個人予選2回目
予選終了後	男子団体・女子団体 決勝トーナメント進出の為の同中競射 男子個人・女子個人 入賞者決定のための遠近競射		
16:00	男女団体決勝トーナメント抽選会		
8月19日 (日)	8:00	開館（中央道場玄関・観覧席）	/
	9:00	女子団体決勝トーナメント1回戦	
		男子団体決勝トーナメント1回戦	
		女子個人決勝	
		男子個人決勝	
		昼食休憩	
	13:30	女子団体決勝トーナメント2回戦～	
男子団体決勝トーナメント2回戦～			
16:30	閉会式		

※上記時間帯は進行状況により開始時刻が前後するので注意してください。

※第3控までに選手及び監督が確認できない場合は失権となります。

※期間中は至誠館弓道場玄関からの出入りはできません。中央道場玄関から出入りしてください。

※招集の開始時間は原則として各競技の開始ならびに再開の15分前とします。

※18日（土）の男女個人遠近競射は、決勝進出者が8名に満たない場合のみ実施いたします。

4. 受付について

- (1) 以下いずれかの時間帯で必ず受付を行うこと。大会プログラム及び選手章等を配付する。
8月17日(金) 開館～16:00 中央道場1階
8月18日(土) 開館～ 8:30 中央道場1階
- (2) 前年度優勝チームは優勝カップを、前年度技能優秀チームは技能優秀カップを17日(金)又は18日(土)の受付時に必ず持参すること。

5. 公式練習について

8月17日(金)、中央道場ならびに至誠館弓道場を10:00から16:00まで無料開放する。回数の制限はしないが各自譲り合って利用し、練習形態(矢数等)は役員の指示に従うこと。練習は登録選手のみとし、必ずゼッケン・選手章を付けること。矢取は原則として選手各位が安全に留意し行うこと。

6. 監督会議について

8月18日(土) 9:00より至誠館弓道場射場にて行う。
監督は、大会出場の手引きを持参の上、定刻までに必ず集合すること。

7. 式典について

(1) 開会式

8月18日(土) 10:00より中央道場射場にて行う。選手の服装は弓道衣(白筒袖・袴・白足袋)とする。

出席者は、団体出場は各チーム代表者1名、監督(引率)1名、個人出場は希望する選手・監督(引率)とする。5分前には整列すること。

開式通告前に修しゅ祓ぱつ(神職が行う清めの儀礼)を行う。堦を清めた後、選手及び監督の清めを行うので、その際は、軽く頭を低く下げて礼を行い、受けること。
選手は矢渡を射場内で観ることも可能。

(2) 閉会式

8月19日(日) 競技終了後、中央道場射場にて行う。
入賞選手及び監督は競技終了後速やかに射場控に集合し競技役員の指示に従うこと。
選手は弓道衣(白筒袖・袴・白足袋)を着用し参加すること。

(3) 式次第

開会式	閉会式
1. 開式通告	1. 開式通告
2. 開会宣言	2. 成績発表
3. 国旗・連盟旗儀礼	3. 表彰
4. 優勝・技能優秀カップ返還 レプリカ授与	4. 大会会長あいさつ
5. 大会会長あいさつ	5. 国旗・連盟旗儀礼
6. 競技上の注意	6. 閉会宣言
7. 選手宣誓	7. 閉式通告
8. 閉式通告	

8. 競技について

(1) 団体競技

- ①射場区分 予選は3射場、決勝トーナメントは2射場に分割して使用する。
- ②制限時間 予選・決勝ともに1立7分30秒以内とする。
 - ア) 制限時間の計時は、進行委員の「始め」の合図により開始する。
 - イ) 制限時間30秒前に予鈴（1音）、制限時間超過時に本鈴（2音）で合図する。
 - ウ) 本鈴と同時に射離した矢は無効とする。
 - エ) 制限時間超過後に射離した矢は無効、残った矢は失権とする。
 - オ) 射場審判委員から行射停止指示が出た場合は、制限時間の規定を適用しない。
 - カ) 自団体内に起因する事故（弦切れ処理等）の場合は、制限時間内で行う。
 - キ) 同中競射については制限時間を設けないが、行射の前後動作が殊更に間延びしないこと。

(2) 個人競技

- ①射場区分 予選は3人立3射場、決勝は3人立2射場に分割して使用する。
- ②制限時間 特に設けないが、殊更に間伸びしないように各自が注意すること。

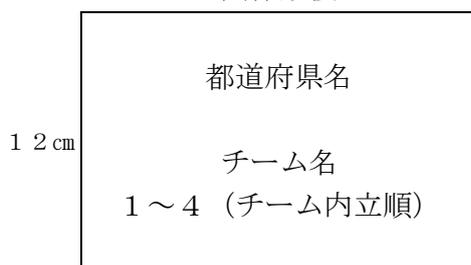
(3) 行射について

- ①一手を持って行射するときは、取矢を行うこと。
- ②次の矢は無効となり、「はずれ」として処理する。矢番え完了（矢番えた後、右手を腰にとった時点）後に、筈が弦から外れた場合、打起し開始後に、射直した場合。
- ③筈の破損による矢の交換は、矢番え完了前までは認める。矢を交換する際には選手が挙手で進行委員に申し出ること。
- ④矢が幕に刺さったり横になったりした場合、団体競技では他の射場に、個人競技では他の的に影響を及ぼさない限り競技を中断し矢取りを行わない。
- ⑤選手は四つ矢のほか替矢2本を準備すること。団体競技の決勝トーナメントにおける同中競射の1本目は替矢を使用する。
- ⑥弦切れの場合は、進行委員が替弦を張る。
- ⑦前の選手より先に射離した場合は、射場審判委員が無効を宣言し、「はずれ」として処理する。ただし、射位において前の選手が持矢を棄権した場合は、この限りではない。

(4) ゼッケンについて

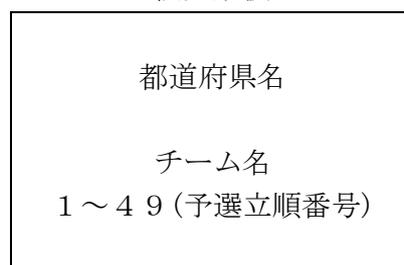
- ①選手はゼッケンを作製し、着用すること。
- ②ゼッケンのサイズは、縦12cm×横18cmとする。（下記図参照）
- ③ゼッケンは白地とし、文字の色は、原則として男子は黒色、女子は赤色を使用し『都道府県名・チーム名・立順（個人は予選立順番号）』を明記すること。
個人競技の予選立順番号は、全日本弓道連盟ホームページにて確認のこと。

<団体競技>



1 8 cm

<個人競技>



(5) 弓具点検について

- ①大会当日、第3控にて弓具点検を実施するので、事前に点検し、必要に応じ修理を行っておくこと。違反した場合は、失権と判定する。ただし修正されればこの限りではない。
- ②弓道競技規則第20条〔弓具の規定〕、第21条〔服装の規定〕については、前掲にて確認すること。
- ③蹠止めは危険防止のため使用を控えること。
- ④髪の毛の長い選手については、危険防止のためゴムなどで束ねておくこと。
- ⑤着装（特に帯や紐等）は正しく行うこと。また、選手章はゼッケンの下に付けること。

(6) 立射・取矢免除申請

事情により立射を希望する場合、取矢免除を希望する場合は、所定の用紙に必要事項を記入の上、8月9日（木）までに、全日本弓道連盟宛に送付すること。

なお、万一、上記の期日以降に、不測の事態が発生し、立射を希望する場合、取矢免除を希望する場合は、全日本弓道連盟まで連絡を行うこと。大会期間中に発生した場合は受付まで申し出ること。

(7) 団体競技出場選手変更・交代及び監督の変更について

※選手＝参加申込み時に登録を行った選手4名の中で、変更・交代を行うことができる。

※監督＝参加申込み時に登録を行った監督以外の方を監督に変更することができる。

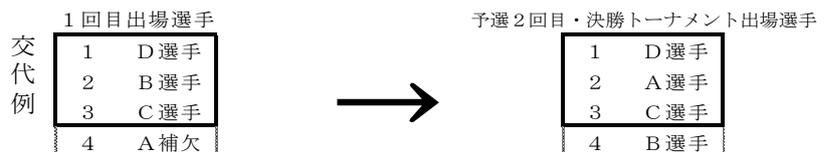
- ① 本手引きに掲載の所定の用紙に必要事項を記入の上、受付に提出すること。
- ②団体競技
 - ア) 選手の変更は、8月18日（土）は8：30までとする。
 - イ) 選手の交代は、8月18日（土）は予選2回目招集までとする。
8月19日（日）は8：30までとする。
 - ※決勝トーナメント開始後（決勝トーナメント中）は選手の交代はできない。
 - ウ) 監督の変更は、両日とも8：30までとする。
- ③個人競技
 - ア) 監督の変更は、両日とも8：30までとする。

予選1回目開始前（19日の8：30まで）に選手変更を行う場合



A B Cいずれかの選手とD補欠の変更が可能。
例ではA選手とD補欠を変更した為、A選手が補欠となる。

予選2回目に出場する選手の交代を（19日・8：30まで）を行う場合
決勝トーナメントに出場する選手の交代を（20日・8：30）までに行う場合



D B Cいずれかの選手とA補欠の交代が可能。
例ではB選手とA補欠の交代をした為、Bは以後出場できない。

(8) 監督の代行について

複数種別の参加で、男女の出場時間が重なり登録の監督が入場できない場合に限り、補欠選手等を監督の代行として入場することを認める。但し、受付時に配布される監督章を必ず着用すること。

9. 競技運行について

(1) 団体競技

①予選

- ・選手は進行委員の指示に従い射場に入場する。(原則として前の立、落の3本目の弦音)入場後は本座で跪坐をして待ち、進行委員の「始め」の合図で揖をして射位に進む。行射後は順次退場すること。
- ・予選通過決定の同中競射においても上記と同様に行う。

②決勝トーナメント

- ・選手は進行委員の指示に従い射場に入場する。
(原則として前立の勝敗の宣言が終わり退場するあたり)
入場後は本座で跪坐をして待ち進行委員の「始め」の合図で揖をして射位に進む。行射後は本座に戻り跪坐、進行委員の勝敗宣言の後、「起立、退場」の合図に従い退場すること。

(2) 個人競技

①予選

- ・選手は進行委員の指示に従い射場に入場。(原則として前立の落の3本目の弦音)入場後は、本座で跪坐をして待ち、進行委員の「始め」の合図で揖をして射位に進む。行射後は順次退場すること。
- ・予選の結果、決勝進出者が入賞枠の8名に満たない場合は、次位の的中者による遠近競射で順位を決める。遠近競射は男女とも18日(土)、個人予選2回目終了後に行う。
- ・遠近競射の競技方法については、進行委員の指示に従うこと。

②決勝は、原則として、射詰競射を1射ずつ行うこととする。

(3) 監督の入場要領について

①団体競技

- ・監督は自チームの3番に続き入場し、選手の跪坐と同時に着座すること。

②個人競技

- ・選手の列・監督の列に分かれ入場。監督は椅子の後ろ側を通り選手の跪坐と同時に着座すること。

10. 注意事項

(1) 射場内にはぎり粉、筆粉の持ち込みを禁止する。

(2) 館内(中央道場及び至誠館)には関係者(選手・監督・引率・役員等)以外の者の立ち入りを禁止する。特に、選手監督控室のある中央道場2階への出入りの際は、セキュリティ確保の為、階段付近で受付時に配布する「選手章」及び「監督章」「引率ID」の確認を行う。また、前述のとおり、関係者以外の出入りを禁止する為、移動の際(私服時含む)も必ず「選手章」及び「監督章」「引率ID」を着用すること。

それ以外の者は入館できないので、応援者等の来訪者があった場合は、選手又は監督が「選手章」及び「監督章」「引率ID」が不要な場所まで移動をすること。

(3) 控室及び観覧席での場所取りは禁止する。特に観覧席は譲り合って使用すること。明治神宮内の芝地等にテントやパラソル等スペースを必要とする設置物の使用は禁止する。これらは応援者へも周知徹底を図ること。

剣道場控室内では床面や壁面を傷つけないよう注意すること。特に床や壁を使用しての弓張りは厳禁とする。

(4) 弓具及び貴重品等は各自で管理すること。会場内での物品の紛失については、一切責任をもたない。届けられた落し物については大会本部で保管する。また、ゴミは各団体でまとめ必ず持ち帰ること。

- (5) 会場は明治神宮苑内のため、苑内での発声を禁止し、射場及び観覧席からの応援は一切禁止する。但し、的中時の拍手のみ認める。
- (6) 会場内は裸足厳禁。必ず白足袋または靴下を着用すること。ストッキングは裸足とみなす。
- (7) 期間中は、会場設営等の都合により巻藁の利用は出来ません。

1 1. その他

- (1) 会期中、全日本弓道具協会による出張弓具修理所を設ける。
- (2) 監督、応援者等の喫煙は所定の場所にて行うこと。
- (3) 実行委員会で許可した写真業者が競技の撮影を行う。

1 2. 問合せ先について

お問合せの際は、可能な限りメールにてお願いいたします。

第15回全国中学生弓道大会実行委員会 taikaikanri@kyudo.jp

1 3. 会場案内

全日本弓道連盟中央道場

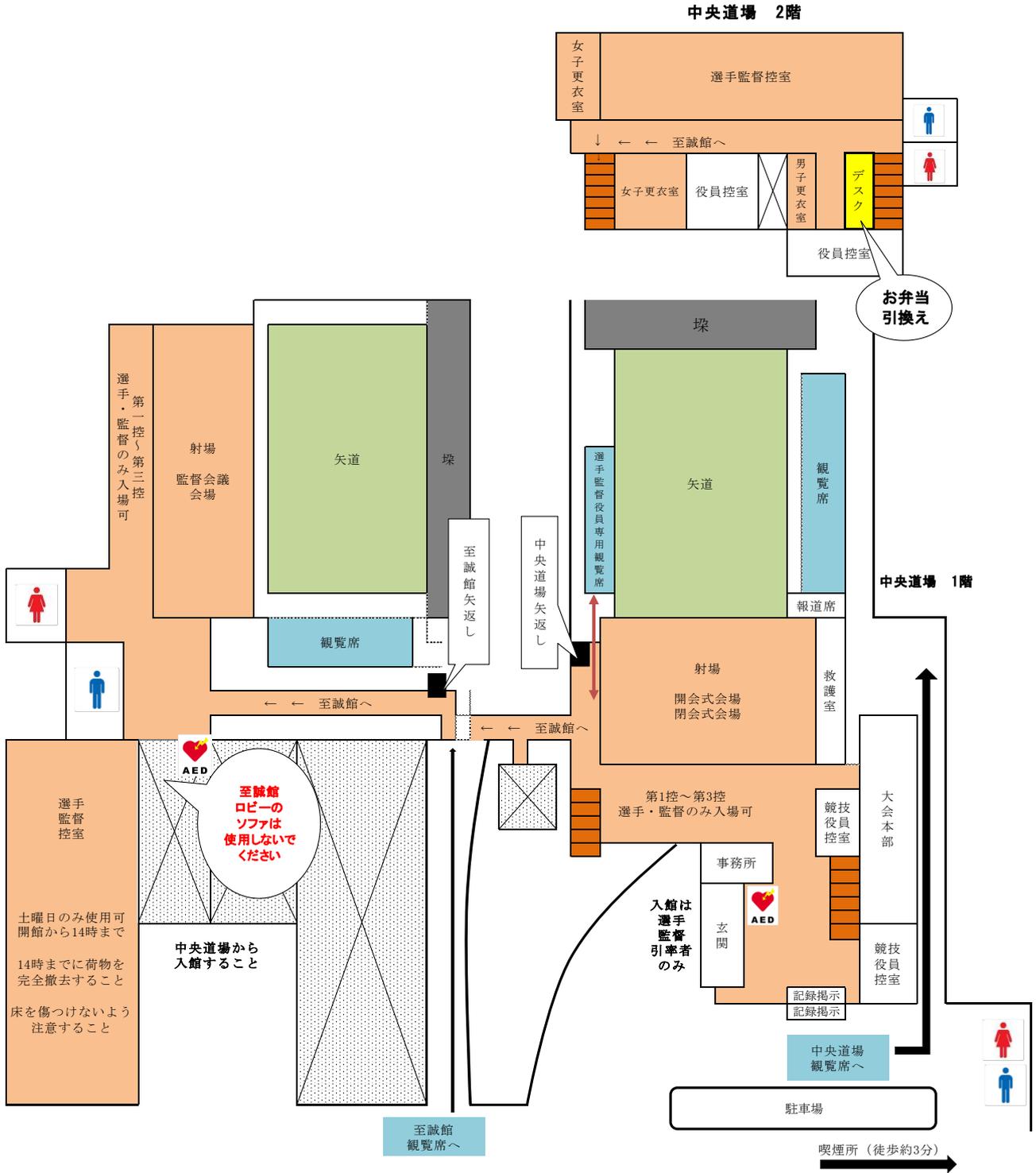
〒151-8557 東京都渋谷区代々木神園町1-1

TEL: 03-5302-5865

JR線・都営地下鉄「代々木駅」より徒歩約15分。小田急線「参宮橋駅」より徒歩約10分。



会場図



第15回全国中学生弓道大会実行委員会 宛 FAXまたは郵送 ※本手引き P4 申込先参照
提出期限：平成30年8月9日（木）必着のこと

第15回全国中学生弓道大会
JOCジュニアオリンピックカップ大会

監督会議の事前質問書

1. 監督会議にて質問がある場合は、質問内容を記入して、全日本弓道連盟へ送付してください。
2. 本大会実行委員会により質問内容を整理して審判会議に諮り、監督会議にて回答いたします。
3. 事前質問書以外のご質問は監督会議では、お答え致しかねますので、予めご了承ください。
本大会の競技に関するご質問のみお受けいたします。

都道府県名	
チーム名	
監督名	
連絡先	携帯電話番号（自宅電話番号）

1. 質問事項

--

第15回全国中学生弓道大会実行委員会 宛 FAX または郵送 ※本手引き P4 申込先参照
 提出期限：平成30年8月9日（木）必着のこと

平成30年 月 日

立射申請書・取矢免除申請書

競技委員長 殿

() 下記選手の立射を申請します。

() 下記選手の取矢免除を申請します。

男子の部・女子の部（該当する箇所に○印）

個人競技・団体競技（該当する箇所に○印）

都道府県 _____

チーム名 _____

監督名 _____

参加申込時立順 個人競技の場合は不要	選手名	申請理由
番	ふりがな	

担当	全日本 弓道連盟	総務委員長	競技委員長
確認者印 又は 署名			

平成30年8月 日

選手変更届

競技委員長 殿

下記のとおり団体の選手変更をします。

男子の部・女子の部（該当する箇所に○印）

予選立順 _____

都道府県 _____

チーム名 _____

監督名 _____

提出先：中央道場内受付

8月18日（土）8：30まで

選手の立順	旧選手名（変更前）	新選手名（変更後）
番	選手名	選手名

受付日時 8月 日 時 分

受付者 _____

平成30年8月 日

選手交代届

競技委員長 殿

下記のとおり選手を交代します。

男子の部・女子の部（該当する箇所に○印）

予選立順 _____

都道府県 _____

チーム名 _____

監督名 _____

提出先：中央道場内受付

8月18日（土）予選二回目招集まで

8月19日（日）8：30まで

選手の立順	旧選手名（交代前）	新選手名（交代後）
番	ふりがな	ふりがな

受付日時 8月 日 時 分

受付者 _____

平成30年8月 日

監督変更届

競技委員長 殿

下記のとおり監督を変更します。

男子の部・女子の部（該当する箇所に○印）

個人競技・団体競技（該当する箇所に○印）

予選立順 _____

都道府県 _____

チーム名 _____

監督名 _____

提出先：中央道場内受付

両日とも8：30まで

旧監督名（変更前）	新監督名（変更後）
ふりがな	ふりがな

受付日時 8月 日 時 分

受付者 _____